

第152回・17年5月・2級

はじめに

まず最初に、外来語についてお話をしたいと思います。

外来語

外来語というのは、文字どおり、外国から入ってきた言葉のことです。

外来語

外国といいますが、それは主にアメリカやヨーロッパなどの国でありまして、

アメリカ

やはり英語のものが多くなっています。しかし、医学関係ではドイツ語がよく

ドイツ語

使われておりますし、芸術の分野ではフランスの言葉をたくさん耳にするので

フランス

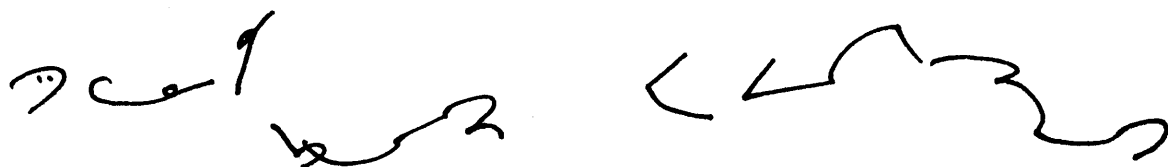
あります。日本では、それらのほとんどを片仮名で書きあらわしてきました。

片仮名

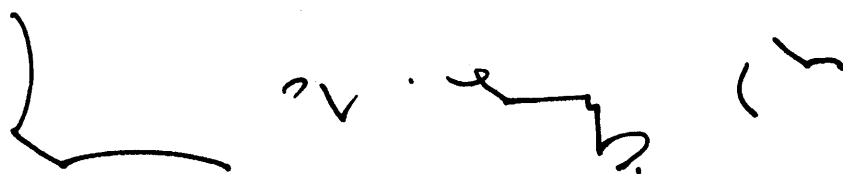
昔から使われている外来語の中には、すっかり定着しまして、もともと日本



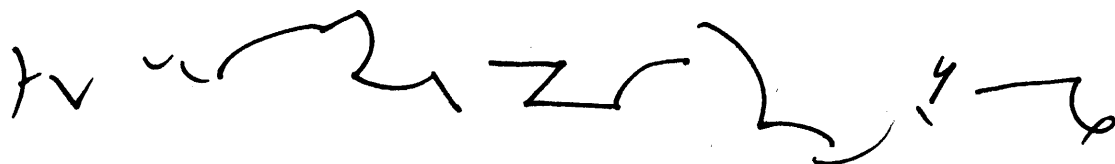
語だっと思われているようなものもあります。例えば、たばこやてんぷらな



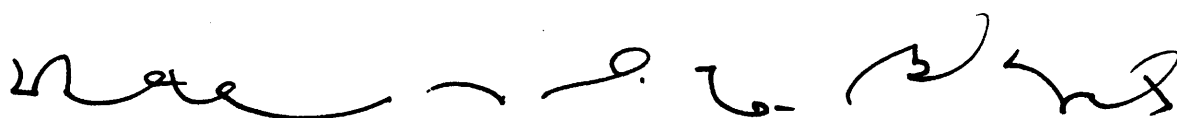
どもそうでありまして、今では漢字で書くこともあるほどであります。



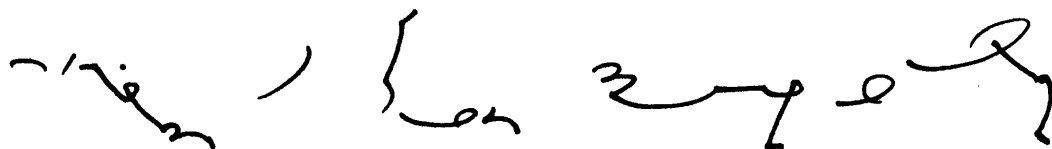
最近では、新聞やテレビなどで、片仮名やローマ字の新しい言葉をよく目に



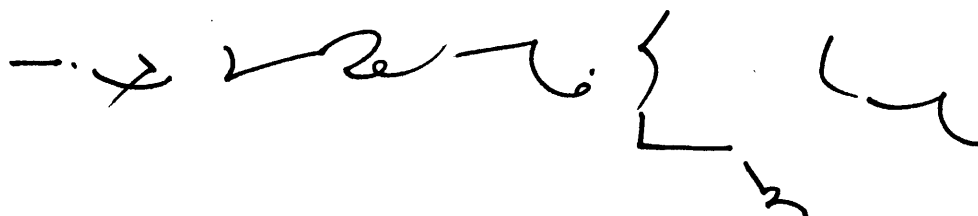
するようになりました。また、地域に配られる役所のお知らせの中でも数多く



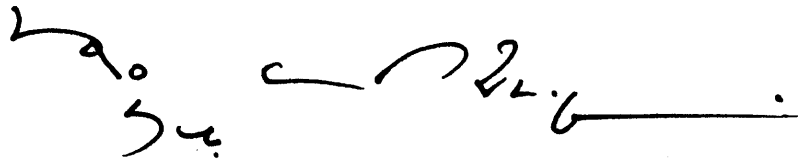
出てきています。そして、お年寄りに対しますいろいろな記事とか情報の中で



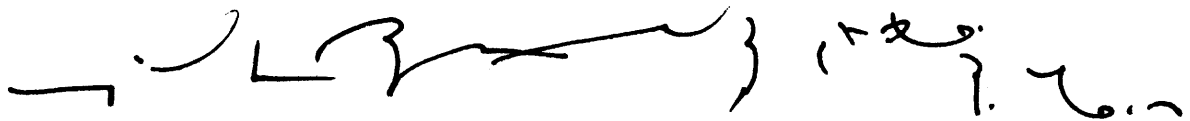
さえ、聞きなれない横文字の言葉がたくさん使われています。本当ならば、読



み手である高齢者にわかりやすい表現をするべきだと思っておりますが、書



く方の使いやすさや格好のよさを優先しているように思えることがしばしばあ

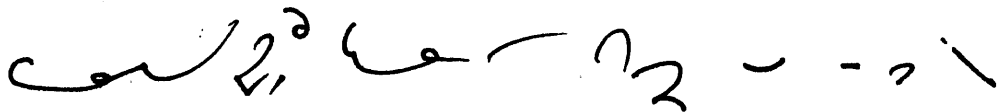


ります。

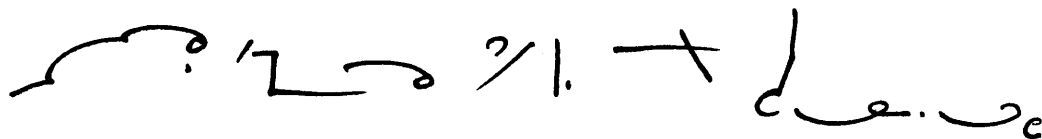
外来語には、これまで日本になかったものや考え方をそのまま伝えて、日本



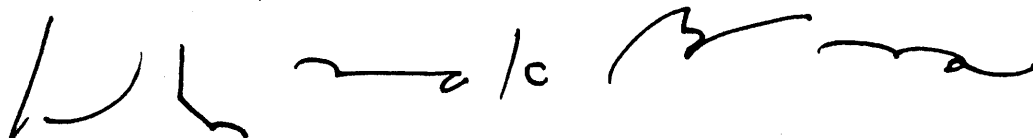
語の表現をより豊かにするという面もあります。しかし、その一方で、むやみ



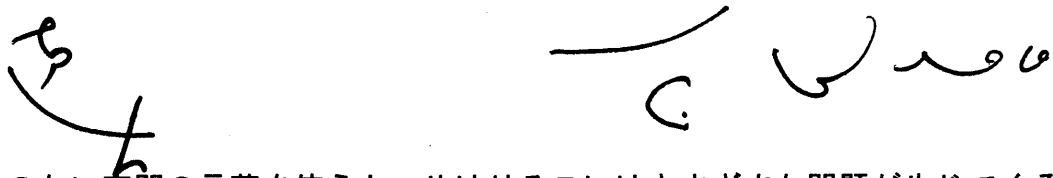
に多く使用すると、言いたいことがかえって伝わりにくくなるのは当然のこと



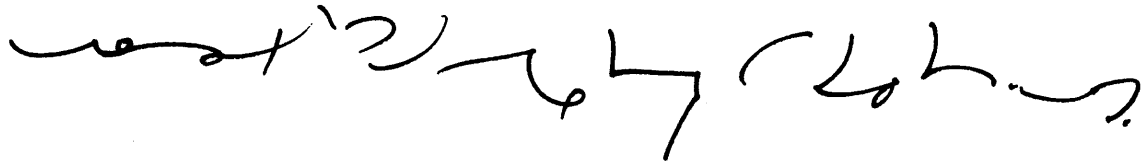
であります。ですから、とりわけ、役所やマスコミなど公共性の高いところは



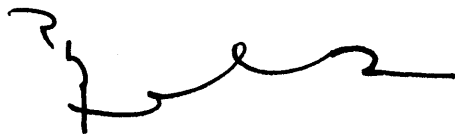
注意をしなければならないと思います。そうしたところが一般の人に余りなじ



みのない専門の言葉を使うと、やはりそこにはさまざまな問題が生じてくるこ



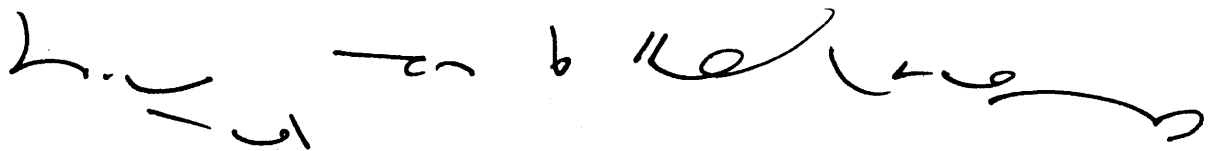
とになるのではないのでしょうか。



そもそも、どのような言葉を選ぶのが一番いいかということは、その場のさ



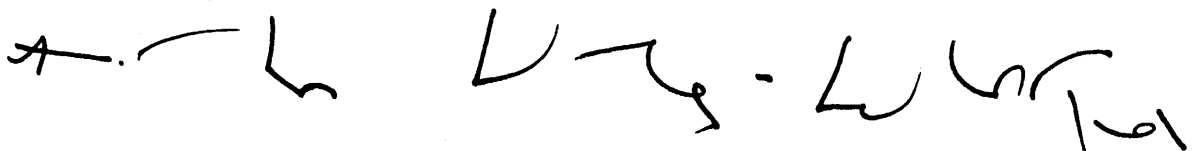
まざまな条件によって変わります。つまり、同じ内容の話をするにしましても、



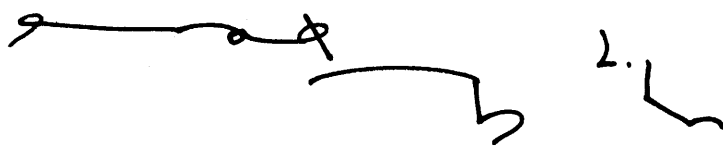
相手はその話題をよく知っているかどうかによって、ふさわしい言葉を選ぶ必



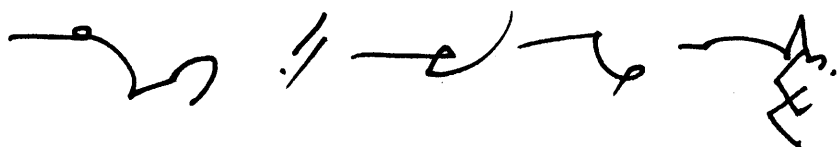
要があるということでもあります。一つの言葉でも、そのときの場面や状況によ



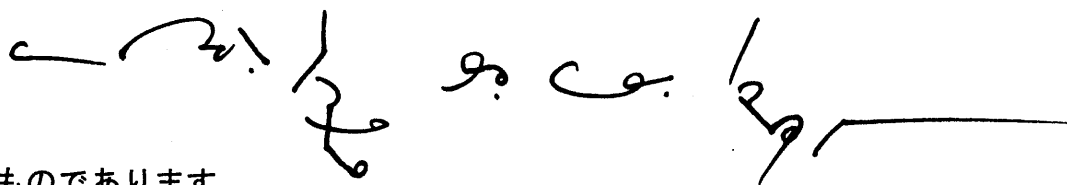
って違う意味になってしまうこともよくあることであります。



外来語も、ただ単に外国の言葉をそのまま受け入れるだけではなくて、わか



りやすく相手に伝えることができるように、上手に日本語に取り入れていき



いものであります。

さて、六月十日は時の記念日です。なぜこの日なのかということは、学校の

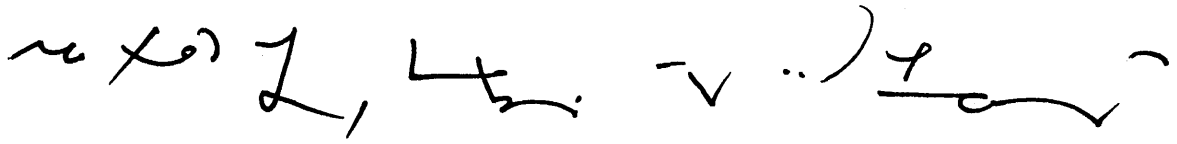


授業などでもよく取り上げられていますので、知っている方は多いのではない

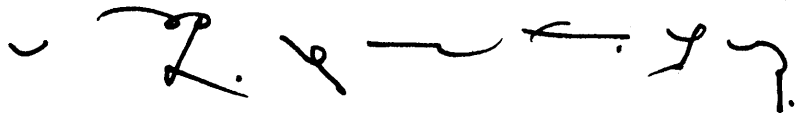


でしょうか。

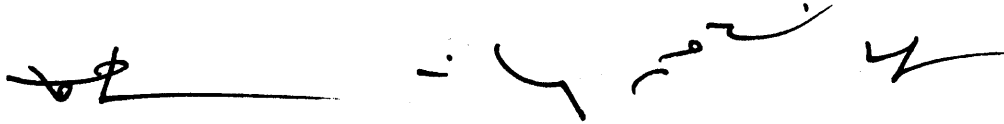
昔は太陽による日時計を使っていましたが、それでは大体の時刻しかわかり



ませんでした。しかし、水時計ができて、かなり正確に時刻を知ることができ



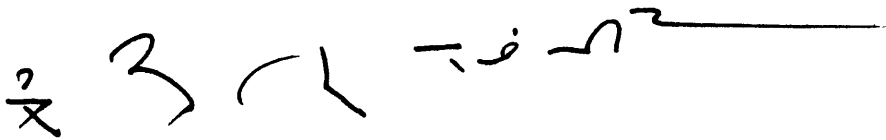
るようになったのであります。それが初めて設置されたのがこの日だというこ



とであります。そして、大正時代になりましてから、時間を大切にする意識を



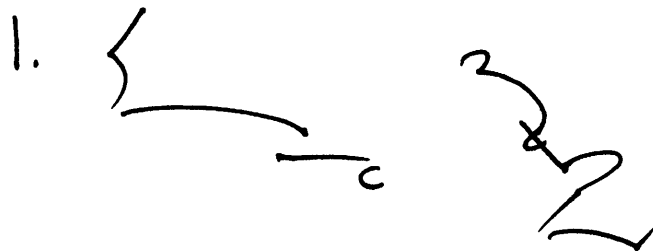
持ってもらおうということで、記念日が決められたのであります。



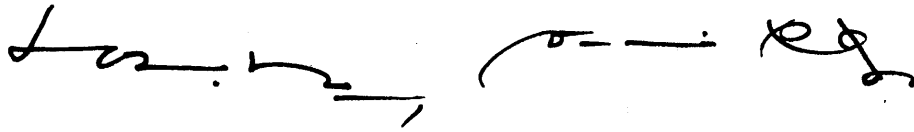
今の時代、人々はますます忙しくなっています。やりたいことや、やらなけ



ればならないことがたくさんありまして、時間は幾らあっても足りません。だ



から、いかにうまく時間をやりくりするかが重要になってきます。

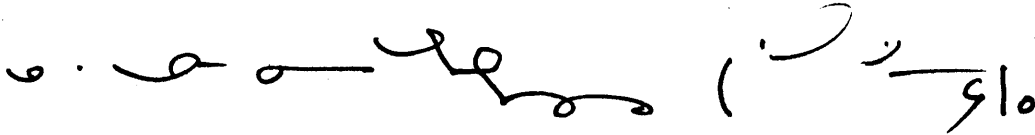


毎年、この記念日にちなんで、大手の時計メーカーではアンケート調査をし

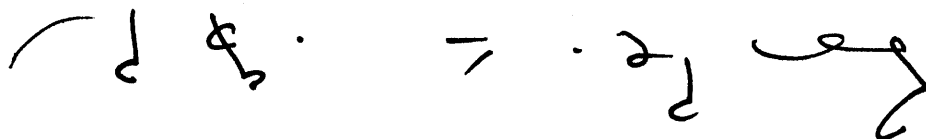


ています。

時間に対する考え方について聞いてみますと、ほとんどの人が、時間は大切



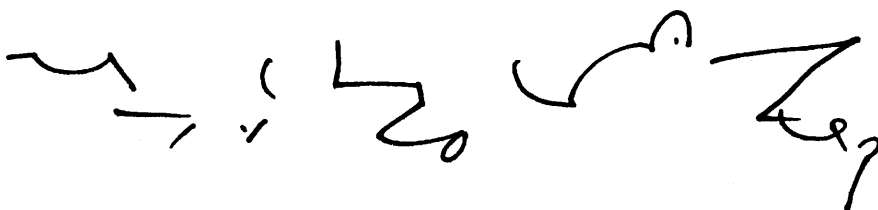
であるということはわかっているけれども、それを管理することは苦手だと感



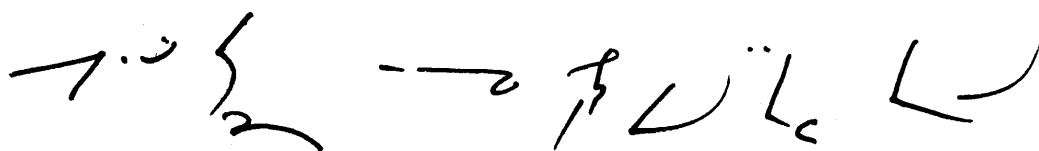
じているそうであります。



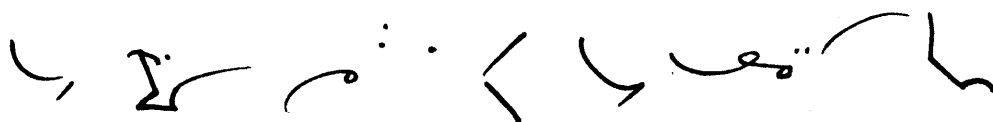
その中で、時間を有効に使うためには早目に行動するようにしていると答え



た人がたくさんいました。それから、遅刻をしないための方法としては、時計



の針を進めておくというやり方が、簡単で一番人気があるということでありま

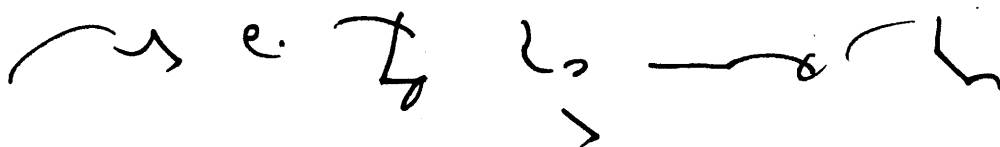


す。

それから、人と待ち合わせをするときには、相手を十分以上待たせないとい



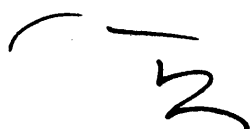
う人でも、自分が待つときには三十分以上でも構わないということでもあります。



ただし、家族と待ち合わせるときには、待たせるのは平気だけれども自分は待



ちたくないという回答もありました。





また、これからふやしたい時間は何かという質問には、趣味という答えが最

も多く、その次に、睡眠や休息、自由な時間ということでありました。この順

番は毎年変わらないそうであります。

逆に、減らしたい時間につきましては、仕事や家事がいつもトップになりま

す。そして、最近では、睡眠や休息を減らしたいという人がふえているという

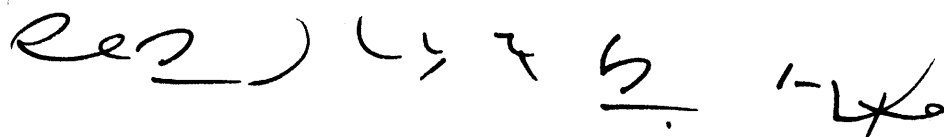
ことであります。これは、ふやしたいと思う人がいる一方で、そのような何も

しない時間をできるだけ削って、趣味の時間に使いたいと思う人が多くなった

ということのあらわれなのかもしれません。



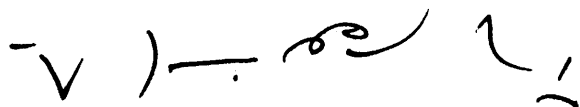
いずれにしても、時間の配分を工夫して、いつも時間に追われることのない



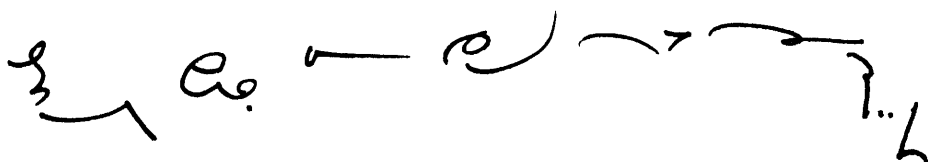
ように過ごしたいものだと思います。



それでは、最後に赤十字のお話をします。



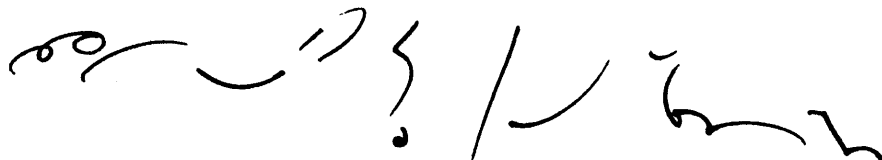
病院などで白地に赤い十字のマークを見かけることがあると思います。それ



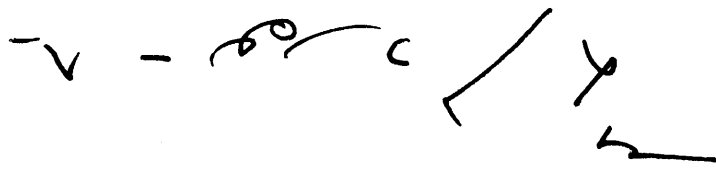
は、いつでもだれでも治療を受けることができますという世界共通の印であり



まして、赤十字という名前の国際的な団体のシンボルマークであります。



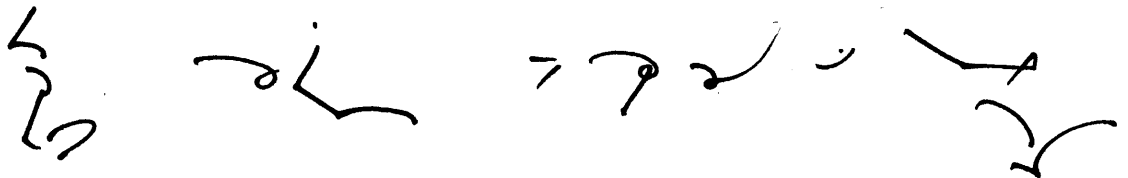
それでは、その赤十字というのはどうしてできたのでしょうか。



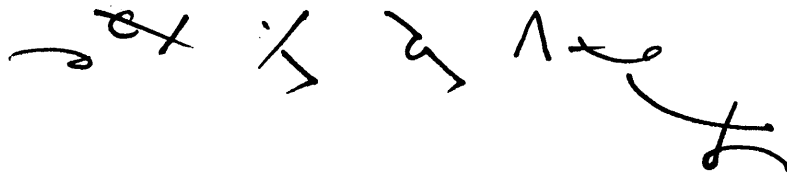
昔、戦争では、けがをした人たちはそのまま死んでしまうのが当たり前でし



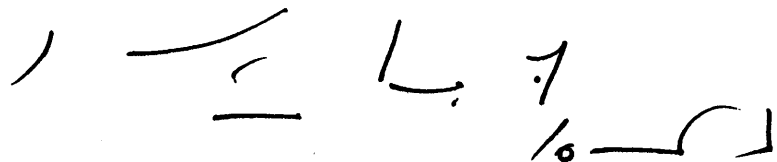
た。助けるとしても、味方だけでありました。それを見た一人の人が、けがを



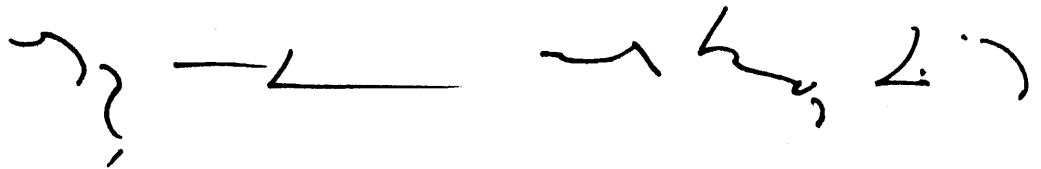
したら、敵や味方は関係なくだれでも手当てを受けられるようにしなければな



らないと考えました。そして、そうした戦場がどんなにひどい状態であるかと



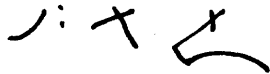
いうことを知らせる本を書いたのであります。その中で、助け合える組織があ



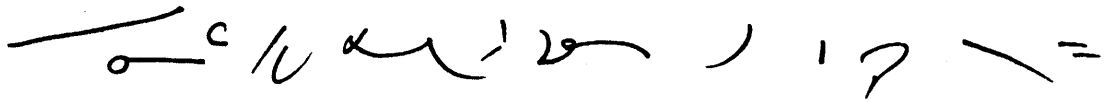
ったら、もっとたくさんの人を助けることができたろうということを世界の



人々に向かって訴えました。



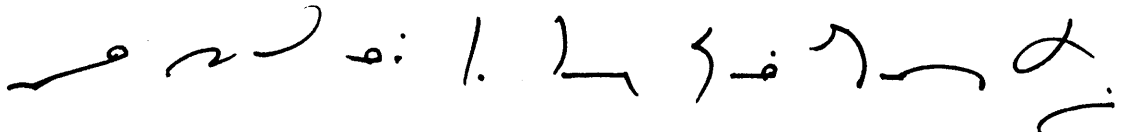
こうした考え方は大変大きな反響を呼びました。そして、この問題を研究す



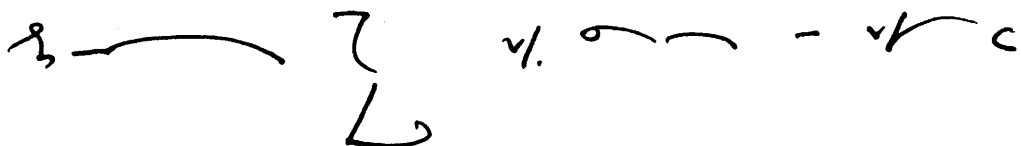
るための委員会が開かれたのであります。それが赤十字の最初の姿であります。



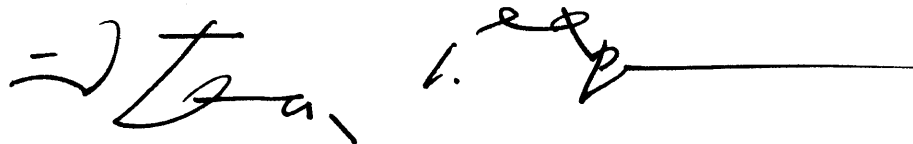
その後、ヨーロッパの国々がどんどん参加して国際会議が開かれました。そこ



で条約が調印されまして、基本となる原則が決まりました。その原則というの



は、それまでの活動の中から生まれてだんだん形になっていったものでありま



す。

どういものかといひますと、生まれた場所であるとか性別であるとか、社

Handwritten scribbles

会的な地位が高いか低いかに関係なく、けがをした人を助けまして、生命と健

Handwritten scribbles

康を守るということでもあります。そしてそのためには、戦争のときはどちらの

Handwritten scribbles

味方をしていけないうことになっているのであります。とにかく一番苦しんで

Handwritten scribbles

いる人を最初に助けることになっています。だから、だれかに命令されるので

Handwritten scribbles

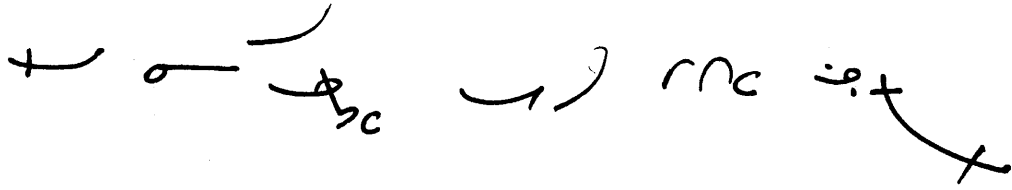
はなく、自分で判断して行動するということでもあります。また、奉仕する気

Handwritten scribbles

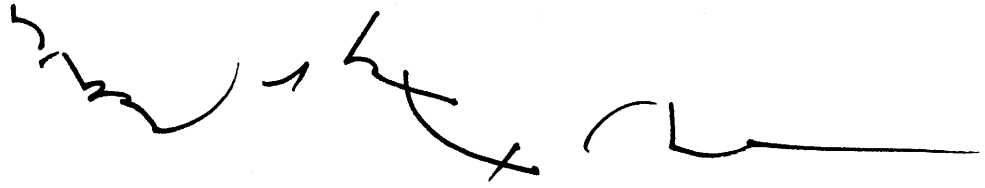
持ちを持ち続けて、自分のしたことに対する利益を求めてはいけません。この

Handwritten scribbles

ような考え方のもとになっているのは、人間の生命は大事にされなければなら

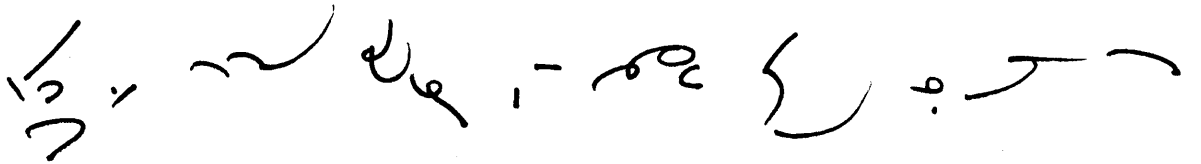


ないし、苦しんでいるすべての人を助けなければならないということなのであ

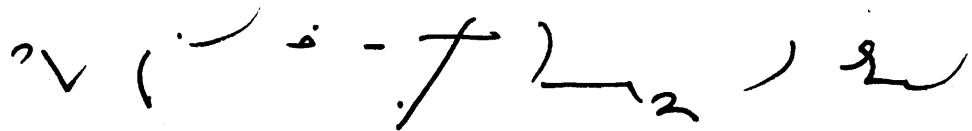


ります。

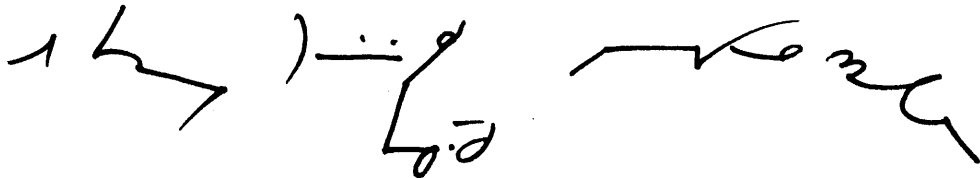
百年以上も前にスイスのジュネーブで生まれた赤十字はたくさんの国に広が



りました。今ではほとんどの国がその活動に参加しています。そして、病気の



人を助けたり、災害が起きたときには救助に向かうというふうに、いろいろな



ところで大切な役割を果たしているのです。 (了)

